

多宝会新聞

法人創立二十五周年特集

去る3月1日福島市役所において「福島市働く女性応援企業・福島市障がい者雇用推進企業 認証式」が行われた。当法人は、福島市働く女性応援認証企業 認証第54号として認定された。当法人の創立以来一貫した「人間主義」に基づき取り組みには、「ご利用者への支援はもとより、法人を支える「柱」であり「核」たるスタッフの皆様への働きやすい環境の提供等も含まれている。いずれも「自分らしさ」を謳歌できる環境づくりへの弛みなき挑戦がここにはある。

福島市働く女性応援認証企業に認定

一徳総活躍社会の実現に向けて、その一翼として始まった働き方改革。法案、法律の内容によって施行時期が違うものの、実質は2019年4月より始まった。日本が直面する「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」「働く方々のニーズの多様化」などの課題に対応するためには、働く方々の置かれた実情に応じて、多様な働き方が選択できる社会を実現することが必要である。具体的には「女性や高齢者などの働き手を増やす」「労働生産性を上げる」等である。

高齢者の働き手を増やすとあるが「改正高齢者雇用安定法」2021年4月1日より施行された内容は、70歳までの就業機会の確保が努力義務化された。多宝会では施行される10年以上前の2009年には、雇用上限年齢70歳とした。さらに、法人と職員双方に異論がない場合は、契約期間を延長することができる。70歳を過ぎてから社会福祉士国家資格を取得した職員や、82歳まで就業されていた職員もおられた。

また子育て中の職員が働きやすいように法人独自の「子育て支援手当」を平成20年に規程に盛り込んだ。この規程は核家族化が進む現代、子供を親に預けられず、託児所や保育施設等を利用している職員に対する手当である。もちろん扶養給している。

多様性を重んじ「らしさ」輝く環境を構築



現在法人では、産休・育休の取得率および出産後の復帰率が100%である。令和2年度の厚生省データによると、出産前後の女性の継続就業率は55%、育休取得率は81%であり、育休制度を利用しなかった理由の1位が「制度の不整備」2位が「収入減への懸念」3位が「職場での理解がなかった」である。諸規則整備を行っても、職場での理解がなかったら本末転倒であるが、当法人では、産休・育休は権利として確保し、利便性を高めるべく、2020年認定の「子育てサポートしている」を掲げ、産休・育休に伴う職員の補填等、組織をあげてバックアップを行っている。

他福利厚生面で、厚生省令和元年のデータによると、家族手当、扶養手当等の支給率は69%、勤務地手当等は12%、住宅手当等は47%である。当法人では全て支給している。

どんなに法律、規程等が整備されても、それを利用するのは「人」である。利用しやすい環境づくりやその規程等の周知が適切になさなければ、整備されても意味がない。法律、規程等を整備すると同時に、利用しやすい環境づくりこそが最も重要である。価値ある反面、複雑かつ過酷な労働環境にある福祉の現場において、多様性を重んじ「自分らしさ」を輝かせることのできるフィールドを、今後も構築し続けていきたい。

令和3年度から令和4年度へ新たな船出

第7回定時評議員会

去る6月20日まちなか宝生園こころホールにて、第7回定時評議員会が開催された。本会は6月2日開催の「第24回理事会」で可決・承認された令和3年度の事業報告、決算報告等を精査し法人運営を決定つける場であり、法人の一年間の総括を行う場でもある。初めに鈴木専務より「今年度はコロナ禍のなか、感染症対策を行い、一定の成果を治めてきた。今後も対策を続け、また2025年問題を見据え、ご利用者の生きがいや満足、支える介護を行い、世の中の変化を追随しながら、法人運営を行う」と挨拶があった。

その後、伊藤達也評議員が議長に選出され、議案審議となった。審議された議案は「令和3年度事業報告承認の件」「令和3年度決算報告(案)承認の件」であった。事業報告では、新型コロナウイルス感染症対策関連が多かったが、令和3年度は感染症対策をしつつも稼働率の維持、業務継続計画BCPの作成など常に変化に対応していく様子が報告された。決算報告では、ショートステイやデイサービス等が、サービス中止されることなく提供されたこと、職員一人ひとりがコロナと向き合い、感染防止に努めたことが結果に表れたと報告があった。報告事項のなかで、苦情解決第三者委員からは「職員の皆様がコロナ禍のなか、ご利用者、ご家族のために四苦八苦されているのは充分理解している。今後もご利用者ご家族、地域の皆様へ愛さ

第22回理事会

去る3月28日まちなか宝生園こころホールにて、第22回理事会が開催された。冒頭に加藤理事長より「福島市出身力士若原景が福島市に希望を与えた。我々も立場は違えど、福島市に希望を与える運営をしていきたい」と挨拶があった。その後、令和4年度の事業計画・予算、組織強化のための定款変更等の協議がなされ、評議員選考委員の選任では、熱海評議員選考委員が退任となり、新たに安齋評議員選考委員が選任された。

第24回理事会

去る6月2日まちなか宝生園こころホールにて、第24回理事会が開催された。定款変更後、初の理事会である。冒頭、加藤理事長より「コロナ禍ではあるが、経済も含め世の中は変化している。当法人も変化に対応しながら、運営をしていく」と挨拶があった。その後、事業報告、決算報告等があり、定款変更により、新たな専務理事の選任、また当法人初の顧問が選任された。

第6回評議員会

第22回理事会終了後、同会場において、第6回評議員会が開催された。役員改選では、約4年間多宝会に

甘い贈り物

去る4月12日に、株式会社山川印刷所代表取締役 役立花明様から、段ボール2箱、計8kgのトリュフとルビートリュフ2種のベルギー産の本格的なチョコレートのご寄附をいただいた。お部屋に甘い香りが漂う中、ご利用者の皆様で美味しくいただいた。



去る6月20日まちなか宝生園こころホールにて、第7回定時評議員会が開催された。本会は6月2日開催の「第24回理事会」で可決・承認された令和3年度の事業報告、決算報告等を精査し法人運営を決定つける場であり、法人の一年間の総括を行う場でもある。初めに鈴木専務より「今年度はコロナ禍のなか、感染症対策を行い、一定の成果を治めてきた。今後も対策を続け、また2025年問題を見据え、ご利用者の生きがいや満足、支える介護を行い、世の中の変化を追随しながら、法人運営を行う」と挨拶があった。

その後、伊藤達也評議員が議長に選出され、議案審議となった。審議された議案は「令和3年度事業報告承認の件」「令和3年度決算報告(案)承認の件」であった。事業報告では、新型コロナウイルス感染症対策関連が多かったが、令和3年度は感染症対策をしつつも稼働率の維持、業務継続計画BCPの作成など常に変化に対応していく様子が報告された。決算報告では、ショートステイやデイサービス等が、サービス中止されることなく提供されたこと、職員一人ひとりがコロナと向き合い、感染防止に努めたことが結果に表れたと報告があった。報告事項のなかで、苦情解決第三者委員からは「職員の皆様がコロナ禍のなか、ご利用者、ご家族のために四苦八苦されているのは充分理解している。今後もご利用者ご家族、地域の皆様へ愛さ

新任役員等人事
専務理事 兼 事務局長 鈴木 泰剛 様
理事 兼 CFO (最高財務責任者) 内山 加奈子 様
顧問 若松 謙維 様
評議員選考委員 安齋 将人 様

第23回理事会
第6回評議員会終了後、引き続き第23回理事会が開催され、第6回評議員会



施設的话题をいち早くお届けする

多宝会 HOTLINE



ケアハウスの花見

二本松市の霞ヶ城の桜を見に行きました。屋台で田楽や焼鳥を食べながら、花見を楽しみました。道中、梅、花桃等が咲いており、満開の枝垂桜の並木道を通った際には車内に歓声があがりました。お腹も心も満たされた様子でした。



デイサービスでひな人形作り

雛祭りに向けてひな人形を作りました。職員が手順等説明しましたが、ご利用者同士で、難しい部分を助け合ったりして、真剣に作りました。出来上がったひな人形は個性豊かで、どこに飾ろうかと話も盛り上がりしました。



ケアハウスで絵手紙

大切な人となかなか会えないご時世となっている中で、ご利用者一人ひとりが届けたい方への気持ちを込めて、絵手紙を作成し、投函しました。改めて人と人とのつながりの大切さを実感できた様子でした。



デイサービスで近所のお散歩

「湯愛舞台」に出かけました。天気も良く、新緑の青さが眩しかったです。飾られているこけしに触ってみたり、こけし作りの映像を視聴したり、思い思いに過ごしました。「ここが昔旅館だったんだよ」と懐かしそうに話をされるかたもおられました。



まちなか宝生園

デイサービスのクラブ活動

小物入れを作成しました。牛乳パックを器にして、好きな色のフェルトを牛乳パックに貼り付けました。その後、レースやビーズを周りに貼り付け、小物入れが完成しました。眼鏡たてやペン立てなど、幅広く使えそうです。



お花見・お茶会

8階こころホールで花見をしました。ご利用者に少しでも春を感じてもらおうと、職員とご利用者が協力しあい、枝垂桜を作成しました。たくさんの枝垂桜がホール周りに飾られ、こころホールが素晴らしい花見会場になりました。



桜にまつわるクイズ大会で盛り上がり、桜の木の下で撮影会などを行い、笑顔があふれました。また桜の下で、桜餅を食べたり、手作りしたねりきりを食べたり、こちらは花見以上に笑顔があふれました。



季節の飾りもの

今回は、フェルトで雫の飾り、画用紙でかたつむりをそれぞれ作成しました。雫の飾り作りでは、久々の裁縫でしたが、針使いは皆さんお手の物でした。かたつむりは、個性あふれる可愛らしいものばかりでした。



アリヴァーレでおやつ作り

おやつ作りイベントを開催しました。今回は「チョコバナナ」と「いちご飴」を作りました。チョコバナナでは、ホワイトチョコもバナナに塗り、チョコスプレーで色鮮やかに仕上げました。見た目も味も、満足した様子でした。



ちまき作り

恒例のちまき作り。毎年ですが、職員がご利用者から教わる企画です。「こんな感じだったかな」と言いながらも、立派なちまきを作りました。その後、たっぷりのきな粉をつけ、皆さんのお腹におさまりました。



アリヴァーレ・ほのぼの宝生園

母の日のお祝い

日ごろの感謝を込めて「母の日」のお祝いをしました。ケーキと紅茶で茶話会を行いました。好きな歌を合唱したり、お孫さんの話を笑顔で話されたり、笑顔が溢れる母の日でした。最後にカーネーションの花束を手に写真を撮りました。



ほのぼのでお花見

あづま運動公園で花見をしました。前日まで三分咲きでしたが、当日は晴天に恵まれ、一気に満開となりました。しばらくぶりの外出だったこともあり、花見を楽しみました。施設に戻って花見団子を堪能しました。今年も花より・・・でした。



西部地域包括支援センター

地域支え合い推進員の一翼

西地区荒井の町内活動が「地域包括ケアシステム2月号」に掲載されました。私達が活動の場へ訪問し、活動の詳細取材してきた内容が掲載されています。私達全員が地域支え合い推進員として、地域の支え合いやちょっとした繋がりを探し、その活動を追っています。



お花見



外で花を見ながら・・・というのは難しいので、気分だけでも味わおうということで、今年は食事でお花見気分を味わいました。色とりどりのお稲荷さんや季節を感じる筍とフキの炊合せ、ロールケーキなど12種類に小分けされた特製花見御膳に舌鼓をうちました。その後、その日のおやつには、三色団子を作りました。小さく丸めて、みたらしのタレをかけて完成です。美味しく、見た目も鮮やかで、春の気分を味わえ、皆さん満足した様子でした。

トビーフ、デザートにはキウイ、イチゴ、ロールケーキなど12種類に小分けされた特製花見御膳に舌鼓をうちました。その後、その日のおやつには、三色団子を作りました。小さく丸めて、みたらしのタレをかけて完成です。美味しく、見た目も鮮やかで、春の気分を味わえ、皆さん満足した様子でした。



初めての水まんじゅう作り

今回は初めての水まんじゅう作りでした。水まんじゅうをしぼる人、あんこを丸める人と役割分担をしました。お皿に水まんじゅうを盛り付け、フルーツと生クリームを添えました。なめらかで、食べやすく美味しいと大変好評でした。



端午の節句

今年のちまき作りは、例年ですとロビーで行いますが、できるだけ沢山の方に参加して欲しいとの思いで、各居室でも行いました。「昔はたくさん作ったんだよ」等と話しながら手際よく作っていました。次の日のおやつにきな粉でいただきました。



各種ご相談は各施設までお気軽にどうぞ、見学等も随時お受けしております。

| | | | |
|-----------|--------------|------------------|--|
| 土湯宝生園 | 024-594-5900 | 西部地域包括支援センター | 024-594-5800 |
| アリヴァーレ宝生園 | 024-594-0061 | 土湯宝生園指定居宅介護支援事業所 | 024-594-5902 |
| ほのぼの宝生園 | 024-594-0063 | 湯ったりデイサービス | 024-594-5900 |
| まちなか宝生園 | 024-521-1122 | 法人本部事務局 | 024-522-6611 |
| 宝寿木村屋 | 024-594-5122 | URL | https://www.tahokai.jp Mail honbu@tahokai.jp |

より多くの方を救うために
多宝会には、3事業所に特別
養護老人ホーム、ショートス
テイがある。本来であれば、1
事業所ごとに電話やメール等で
申し込まなければならぬが、
多宝会ではサービス連携課が事
業所を横断し、一手に引き受け
ている。また、ホームページか
らでも申込書のダウンロードが
できる（HP↓空室案内↓一番
下にスクロール↓左下のお申
込の流れより）。ご利用でお困り
の場合は利用してはいいかがでし
ょうか。